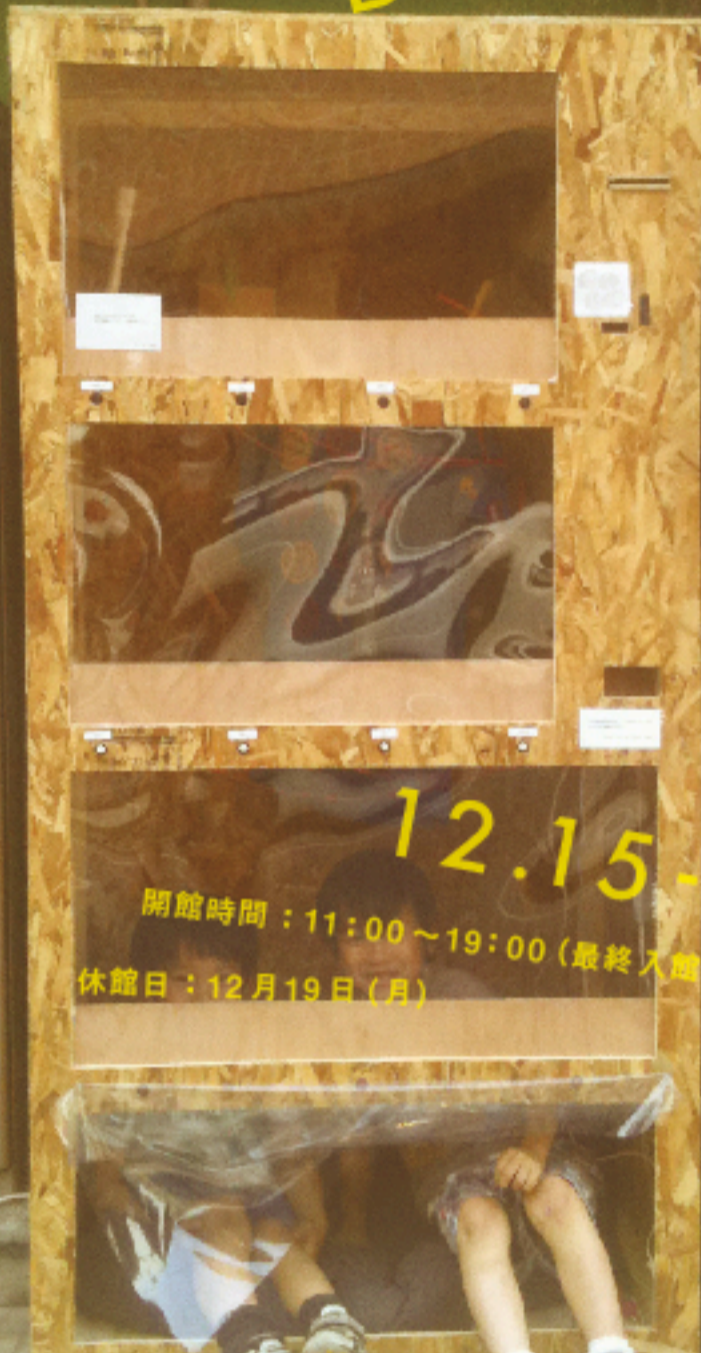




Plasticity and 可塑的な Civil Disobedience

抵抗



土谷びわ
日名舞子
松井茜
村上泰介
米子匡司

12.15 - 12.25

開館時間：11:00～19:00 (最終入館 18:45)

休館日：12月19日(月)

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都市中京区油小路通御池町238-1)

<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>

「Plasticity: 可塑性」の語源（ギリシャ語の「plassein」）は、彫塑など造形美術とその素材、すなわち「形を与える」能力と「形を受け取る」能力の二つの意味を持つ。脳神経科学では、神経機構の成長・調節・修復のプロセスに於いて、この「可塑性」という言葉が充てられており、状況に応じて自らの回路をたえず再構築してゆく柔軟な生存システムをさす。しかし「形を受け取る」と同時に「形を与える」能力が行使される背後には、第三の能力、構成された形にたいする不服従、フォルムの消滅としての「プラスチック爆弾」が作動していることを忘れてはならない。「しなやかさ」の感性とも捉えられる可塑性は、その中に秘められた堅さ・抵抗力がなければ容易に、卑劣な修正主義に転じてしまう。本展覧会に於いては、「形を与える能力」としての従来の造形美術表現には、取まらない系（法とゴミ、ジェンダー、自閉症、街の道具など）「排除されたものからの抵抗」という逃げ場のない場所にとどまりながら、そこを支点に硬直したプロパガンダでも日和見主義でもない新たな表現の可能性と関係性の再構築による共感の設計をめざす試みを紹介しす。

同時開催：
瀬江宏三教授 退任記念展「銅版画師ウィリアム・ブレイク」12月14日(水) - 12月25日(日)

次回展：
内藤英治教授 退任記念展 1月6日(金) - 1月15日(日) (@KCUA1)
京都芸大を巣立った若手型染作家たち 1月6日(金) - 1月15日(日) (@KCUA2)

企画：京都市立芸術大学美術学部構想設計高橋研究室 主催：京都市立芸術大学



地下鉄「二条城前」駅（2番出口）徒歩約3分
市バス「瀬川御池」バス停下車すぐ
〒604-0052
京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1
お問い合わせ 教務学生支援室 事業推進担当
tel.075-334-2204

Plasticity and 可塑的な抵抗 Civil Disobedience

12/15 - 12/25

開館時間：11:00～19:00 (最終入館 18:45)

休館日：12月19日(月)

企画：京都市立芸術大学美術学部構想設計高橋研究室 主催：京都市立芸術大学

「Plasticity: 可塑性」の語源（ギリシャ語の「plassein」）は、彫塑など造形美術とその素材、すなわち「形を与える」能力と「形を受け取る」能力の二つの意味を持つ。脳神経科学では、神経機構の成長・調節・修復のプロセスに於いて、この「可塑性」という言葉が充てられており、状況に応じて自らの回路をたえず再構築してゆく柔軟な生存システムをさす。しかし「形を受け取る」と同時に「形を与える」能力が行使される背後には、第三の能力、構成された形にたいする不服従、フォルムの消滅としての「プラスチック爆弾」が作動していることを忘れてはならない。「しなやかさ」の感性とも捉えられる可塑性は、その中に秘められた堅さ・抵抗力がなければ容易に、卑劣な修正主義に転じてしまう。本展覧会に於いては、「形を与える能力」としての従来の造形美術表現には、収まらない系（法とゴミ、ジェンダー、自閉症、街の道具など）「排除されたものからの抵抗」という逃げ場のない場所にとどまりながら、そこを支点に硬直したプロパガンダでも日和見主義でもない新たな表現の可能性と関係性の再構築による共感の設計をめざす試みを紹介します。

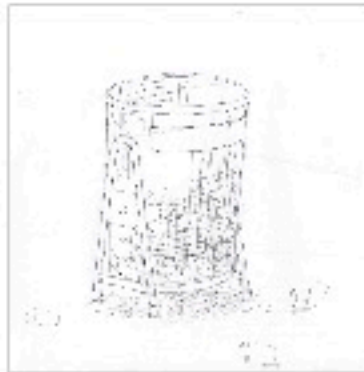
○展示作品／作家紹介



1



2



3



4



5

1. 土谷びわ (京都市立芸術大学大学院造形構想専攻1回生)

「彼女の城」

今年19歳になる妹は、小学校卒業以来家族以外の人間とはほとんど関わりを持っていない。母と彼女の暮らす部屋は、彼女たちが長い年月をかけて運び出した物たちでつくられた唯一の、安心の世界である。

2. 日名舞子 (京都市立芸術大学大学院造形構想専攻1回生)

「トイレのさしすせそ」

トイレに入るとき、あなたは何かみてるトイレを選んでいませんか？多くの場合は、色や形やことばで印された(記された)性別を表すマークをみていることでしょうか。そしてそのマークが重要だということに、急いでトイレに駆け込むときや、言葉のわからない国で気がつくでしょう。では、なぜトイレが性別によって分けられているのか？という問いをたてることは、ここでは短期的に身体的な性差を理由と考える事ではなく、社会的な性差に基づく権力関係が原因である問題やセクシャリティについて考えるきっかけをつくる試みです。

*なぜトイレが性別によって分けられているのでしょうか？

3. 松井苗 (京都市立芸術大学大学院造形構想専攻1回生)

「威」

ゴミを集める人、ゴミを捨てる人、ゴミという名前がついてはいますが、私にとって価値の無いものなだけです。私の手を離れた瞬間から私のものではないはず、誰のものでも無い筈のものが、いつのまにか乗例という他人が決めたもので他の誰の手にも触れないうちに誰かのものになる。ゴミがまた誰のものでもないところに行けるようにしたい、誰かのものになることをリセットする装置。

威とは武器を持って弱者をおびえさせる意があります。

4. 村上幸介 (京都市立芸術大学大学院博士課程メディアアート専攻在学)

「Multi modal ring ~感覚の木~」

自己と環境の関係を複合的な感覚を通して知覚する場を構築する、身体の運動を通して展示空間に実現している環境に働きかけることで、触覚、聴覚、視覚なども通した経験が動的に生成され、自己と環境が時間、空間に対して相補的であるような状況認知が実現される。身体内外からの感覚、知覚の統合を解きほぐすためのエクササイズ。

5. 米子匡司 (音楽家)

「街の道具」

自動販売機や電光掲示板などの街の道具を、誰でも扱う事ができるための実例とコンセプトの展示です。

それを通して、意を達したり、人と衝突せずに人と伝達・共存ができる各種の街の道具はすごく便利なのですが、公共空間の道具は多くの場合どこからでもたられるもので、なかなか個人が自ら設置できるものではありません。街のシステムがもう少し開かれている方が、日々を過ごしやすい気がして、自動販売機はそのための試みとしてのものです。現在流通している自動販売機は企業向けのプロダクトで個人は買にくい、買えたとしても高いですから、安く作れる設計図も添付します。

○ワークショップ

「あきかんのだて」

日時：12月23日(金) 14:00～

企画：松井苗

ゆるゆるお話ししながらたまにはのんびりお茶でものみましょう

「お話し時間『らくがきおばさんからのプレゼント』～いっしょに居ること、続けること～」

日時：12月22日(木) 17:00～19:30

企画：日名舞子 話し手：佐藤伸子、田中希、日名舞子

ふたりの話し手から語られる「経験からのお話」を受け取る時間です。

「電気耳 The enhanced ears (電気うごく、いろいろな耳で、あそんでみよう。)～共感の設計ワークショップシリーズ～」

日時：12月23日(金) 15:00～16:00 / 12月24日(土) 13:00～14:00、15:00～16:00 2回開催

(途中参加や途中退場も可能です。お気軽にご参加ください。)

企画：村上幸介 場所：2F 吹き抜け・南側ラウンジ

電子的に制御された特殊な耳型の装置を使って、自己と他者の関係を解きほぐす遊びです。



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

同時開催：湘江宏三教授 退任記念展「銅版画師ウィリアム・ブレイク」12月14日(水) - 12月25日(日)

次回展：内藤英治教授 退任記念展 1月6日(金) - 1月15日(日) (@KCUA1) / 京都藝大を巣立った若手型染作家たち 1月6日(金) - 1月15日(日) (@KCUA2)

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学キョーラリー・アーツ「211 新油池キョーラリー」



地下鉄「二条城前」駅(2番出口)徒歩約3分

市バス「堀川御池」バス停下車すぐ

〒604-0052

京都市中京区油小路通御池御池小路町 238-1

お問い合わせ 教務学生支援室 事務推進担当

tel.075-334-2204

